2019.7.18
vol.77

シネマ・ド・りぶらの
コラム・ド・シネマ

映画を読む

本日の上映作品『ゴリオ爺さん』

7 月 18 日（木）

① 10:30 ～　② 14:00 ～　③ 18:30 ～

苦労に苦労を重ねて小金を貯め、ふたりの娘をそれぞれ大貴族と銀行家に嫁がせたゴリオ爺さん。自身は貧乏下宿でつましい生を送りながら、やがて非業の死を迎えることになる彼を看取る、若き学生のラスティニャック……。ふたつの人生を交差させるようにして、19 世紀の断面が切り取られてゆく――。

監督：ジャン＝ダニエル・ヴェルハージェ
出演：シャルル・アズナヴール、
　　チェッキー・カリョ、
　　マリック・ジディ
製作：2004 年　フランス　カラー　100 分

『ゴリオ爺さん』	バルザック／著	新潮社	953.6
バルザック「人間喜劇」セレクション 第 1 巻『ペール・ゴリオ』	バルザック／[著]	藤原書店	953.6
『バルザックと 19 世紀パリの食卓』	アンカ・ミュルシュタイン／著	白水社	950.268
『バルザックとその時代』	伊藤 幸次／著	渡辺出版	950.268
『バルザックを読む 1 』対談篇 『バルザックを読む 2 』評論篇	鹿島 茂／編	藤原書店	950.268
『バルザック伝』	アンリ・トロワイヤ／著	白水社	950.268
『バルザック』	高山 鉄男／著	清水書院	950.268
『闘う小説家バルザック』	芳川 泰久／著	せりか書房	950.268
『バルザックの世界』	石井 晴一／著	第三文明社	950.268
『バルザックとこだわりフランス ちょっといい旅』	柏木 隆雄／編	恒星出版	950.268
『フランス文学を旅する 60 章』	野崎 歓／編著	明石書店	950.2
『銀幕の村 フランス映画の山里巡り』	西出 真一郎／著	作品社	293.5

コラム『ゴリオ爺さん』

締めの一言は「今度は僕が相手だ」　K.M.

今回の上映作品は、フランスの文豪バルザックにより 1835 年に発表された長編小説「ゴリオ爺さん」をドラマ化したフランスのテレビ映画です。タイトルは小説と同じ『ゴリオ爺さん』。小説 「ゴリオ爺さん」はバルザック小説の精髄である小説群「人間喜劇 」の中核ともゆうべき重要な作品で、しばしば舞台化もされているようですが、映画化は意外に少なく、日本で公開されているのは今回上映の作品だけのようです。

私も今年度の上映作品を検討する過程でこの作品を初めて知りました。タイトルになっているゴリオ爺さんを演ずるのが、あの有名なフランスのシャンソン歌手・シャルル・アズナヴールという意外性に惹かれて、しかし長大な小説のダイジェスト版的なテレビ映画かもと、若干軽い気持ちで DVD で試写したのですが、予想に反して本格的な素晴らしい文芸作品でビックリしました。改めて調べてみると、脚色のジャン＝クロード・カリエールは名脚本家として著名であり、大歌手アズナブールは、実は 60 本以上の映画に出演している俳優でもあったことが分かりました。今回参加の皆さんも殆どこの作品についてあまりご存じないと思いますので、若干予備知識を補足しておきます。

この作品の背景となっているのは王政復古期の 1819 年のパリ。ヴォケール夫人という女将が経営する安下宿屋が主たる舞台となっています。ここに、ゴリオ爺さんをはじめ、一癖ありげな中年男ヴォートラン、ブルジョア階層の父親に認知してもらえていない娘ヴィクトリーヌとその叔母など、７人の下宿人たちが住んでいます。そこに、もとは貴族でありながら今は没落した家の将来を託された青年ラスティニャックが、地方から法律を学ぶためにやって来て物語は幕を開けます。

苦労を重ねて小金を貯め、２人の娘を大貴族のレストー伯爵と銀行家のニュシンゲン男爵に嫁がせたゴリオ爺さんと、パリにやってきたばかりの青年ラスティニャックという、全く正反対の立場にいる二人の運命が、一つ屋根の下で交錯することにより物語が誘発され、当時のパリの情景と社会が描出されていきます。娘たちに惜しみない愛情を注ぎながら、いまやレスト―伯爵夫人となった姉のアナスタジーからも、銀行家夫人に収まった妹のデルフィーヌからも邪険にされ、金を搾り取られるゴリオ爺さん。一方、希望と野心に燃えながらも、地方出身の没落貴族の悲哀を味わうことになるが、若さを武器に己の道を切り開いてゆくラスティニャック。

この物語の主人公は、ゴリオ爺さんなのかラスティニャックなのか？　当初、私は作品のタイトルやチラシの宣伝文句から、何となくゴリオ爺さんが主人公なのだろうと思っていたのですが、作品を観終わった後、それは早合点で、ゴリオ爺さんは主人公の精神に影響を与える脇役の一人でしかなく、人々の悪意・虚栄心・得手勝手・オモテの世界とウラの世界・利用する者とされる者・忠誠や愛情が敗北してゆくさまなど、こうしたパリのさまざまな人間模様を目にしながら、「本心を見せてはだめ、人を利用するのよ」という、従姉妹のボーセアン夫人の助言通りに世を渡っていく野心家のラスティニャックこそ主人公で、彼の「視点」こそ重要であると思うようになりました。

同時に彼は、ボーセアン夫人やゴリオ爺さんの「敗北者」としての生きざまにふれて、おそらく彼は、「敗者」の側にこそ人間の「尊厳」みたいなものが存していることを知るが、「敗者賛美」に終わらず、容赦なく敗者を生む複雑怪奇なパリという町とそこに生息する「社会」という生き物に対して対峙して、それに打ち勝つことを決心する、という見方の方が面白いと思います。

また、名脚本家ジャン＝クロード・カリエールが長大な小説「ゴリオ爺さん」を、２時間弱の映画『ゴリオ爺さん』に破綻なく見事に脚色できた秘訣も、この主人公の置き換えにあるような気がします。ラストシーンでの「今度は僕が相手だ」という一言が効いています。

6/20 『黄金の腕』の感想

・ヒッチコックの映画を観ているようでした。スリルとサスペンスの連続でした。息詰まるシーンの連続で名作でした。また、覚せい剤の怖さを改めて知らされました。凄いですね。一時の快楽を求めて身を亡ぼす姿を心に灼きつけられました。また、この DVD で女性の「愛の一途さ」も見せられました。改めて「人生を生き抜くこと」は人間同士の愛憎の中にあるのですね。私共夫婦の 45 年間を振り返る機会となりました。

・人間の弱さ、本当の愛が何か考えさせられるよい映画でした。ありがとう。

・よかったです。今の時代も同じことが起こっています。やはり愛で直すしかないと思う。悲しいことですね。繰り返されてはいけないことですね。

・フランク・シナトラの映画、初めて見ました。なかなか見応えがありました。映画の中の音楽もとても効果ありました！ また、よい映画をよろしくお願いします。藤沢作品の時代物、よろしくお願いします。

・横顔、右からフランク・シナトラ ステキ。違う作品も見たい。

・麻薬の恐ろしさ！ それにしても、フランク・シナトラの演技は、本人が実際ヤク患者かと思えました。キムの美しさに改めて感動。名画は何度見てもいいですね。

・始めて参加しました。名画はいつまでも、時がたっても感動します。これからもよろしくお願いします。楽しみにしてます。

・中毒 (依存症) の悲劇は、永遠のテーマ (課題) だろうと思う。自分もアル中寸前までいっていて、13 年前に AA (アルコホーリクス・アノニマス) に参加したのをきっかけに、酒をやめることができた。あらゆるギャンブル（パチンコ、競馬、競輪、競艇も）について、日本はもっともっと深刻に受け止めて、考えなければいけないと思う。「公営」は、インチキだ。

・賭博・麻薬・殺人など、救いのない題材ばかりですが、一つ間違うと自分にもふりかかりそうなこともあって恐いです。

・麻薬コワイ。感動しました。ありがとうございました。

・愛と麻薬、むつかしいことですが、麻薬はいけないことを痛感しました。

・絶対に薬に手を出してはいけないと思いました。

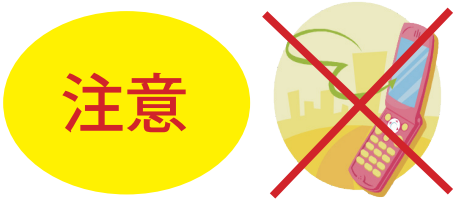
・ヤクはこわいですね。

・白黒映画、初めてみました。ドキドキハラハラ、効果音も心を刺しました。

・見て、「価値」がある作品でした。ありがとうございました。

・毎回素晴らしい映画をありがとうございます。次回を楽しみにしています。

・前の席で、携帯を 5･6 回も見ている人がいて、気が散って残念だった。



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。**上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。**

サロン・ド・シネマについて

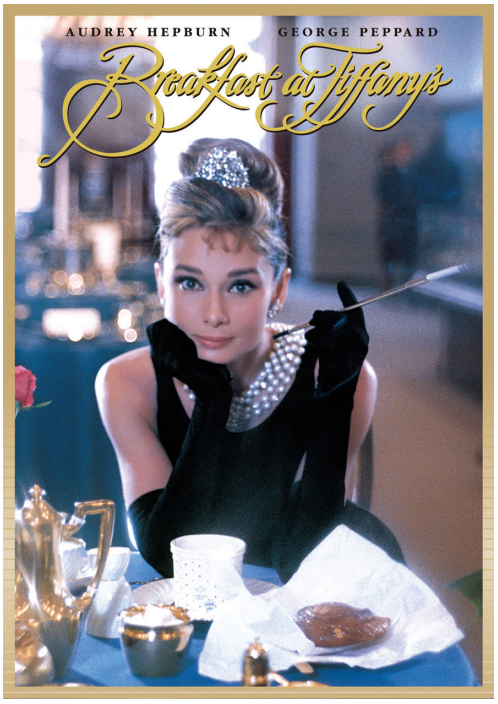
ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、T モードに切り替えてください。

第 77 回上映会のご案内

ティファニーで朝食を　字幕上映

BREAKFAST AT TIFFANY'S



©1961 PARAMOUNT PICTURES CORP. JUROW-SHEPHERD PRODUCTIONS. All Rights Reserved.ACADEMY AWARD (R) AND OSCAR (R) ARE THE REGISTERED TRADEMARKS AND SERVICE MARKS OF THE ACADEMY OF MOTION PICTURE ARTS AND SCIENCES

8 月 22 日（木）

① 10:30 ～　② 14:00 ～　③ 18:30 ～

ＮＹの安アパートに暮らすホリーの日課は、一流宝石店ティファニーのショー・ウィンドウを見ながら、朝食のクロワッサンを食べることだった。ある日彼女のアパートの隣室に、作家志望の青年ポールが越してきた。ポールはたちまち、不思議な魅力をもつホリーに惹かれていく……。輝く宝石のようなオードリーの魅力をちりばめた、素敵でおしゃれなラブ・ストーリー。二人のロマンスは、アカデミー賞 (R) にも輝いたヘンリー・マンシーニの主題歌「ムーン・リバー」のメロディと共に、いまも多くの女性の心を捉えている。

監督：ブレイク・エドワーズ
出演：オードリー・ヘプバーン、ジョージ・ペパード
製作：1961 年　アメリカ　カラー　114 分

2019 年度の上映のご案内（上映作品は変更になる場合があります。）

2020 年 1 月～ 3 月ホール改修工事のため、2019 年度の上映会は下記の通りとなります。

第 79 回	9 月 19 日（木）	『自由を我等に』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
第 80 回	10 月 17 日（木）	『終着駅』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
第 81 回	11 月 28 日（木）	『キリマンジャロの雪』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
第 82 回	12 月 19 日（木）	『ビューティフルメモリー』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
2020 年度					
第 83 回	4 月 16 日（木）	未定			
第 84 回	5 月 21 日（木）	未定			
第 85 回	6 月 25 日（木）	未定			

上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

りぶらサポータークラブ事務局：市民活動センター tel：23-3114　ホームページ：https://www.libra-sc.com/